

現時局下に於ける幼兒保育 (三)

倉 橋 惣 三

第四 協力性の教育

この大きな建設をやつてゆきますのに、今でも協力なしには出来ません。一億一心といふのは即ち協力であります。この協力が續くだけでなく、發展してゆかねばなりません。また同じ協力が續くだけでなく、發展してゆかねばならぬのであります。將來、協力性のない日本人が澤山出れば、その一人一人に耐久性、建設性があつても國としての大事業をしてゆく事は出来ません。幼い子供に協力性になつてゆく傾向を養つてゆかねばなりませんし、協力性に反する傾向をさめておかねばならないのであります。協力性は今子供等に三つてそれほぎ必要ではありません。耐久性、建設性は生活上、遊びの上に於てよくあらはれることであります。しかし、協力といふ方は今必ずしもさう必要でないかもしれぬ。したがつて、生活の中にこれに反する傾向が多く出てくるのであります。

協力には二つの方向が分析されます。これを横にながめるに皆三協同する事であります。協同性なき協力はありません。協同性とはどんな事か三申しますに、これは全く人に共に居る事、ある事の生活的快感に他ならないのであります。何のために協同するや三は、意味がありさうで捉へにくい。たゞ協同を樂しむ。これはある意味に於ては本能的なものであります。又ある意味に於ては當然な事でもあります。健全なる人間には當然あるべきであります。幼稚園に來る子供の朝の喜びは協同性のあらはれであります。中には變つたのがあつて、「皆より早くこなければ面白くない」「笑聲等といふのもあります」「皆が揃つた頃出かけなければ偉くねえ」「笑聲等といふのがあります。これが大きくなるに講習に遅れる人になる。(笑聲)揃ふのが何もなく人間の愉快なのであります。子供に協同性を感情として養ふのは當然で、これがなければ病的であります。變つてつて

あります。中には、心の中では面白くても協同すること自體の快感が缺如してゐるのがあります。他人が喜ぶから喜ぶといふのは他の意味では雷同であり、輕佻でありますが協同性の點からは積極的性情であります。遊戯を皆がしてゐる時に見てゐてそれに加はらない人がある、これは「私のやうなうまい人があんなわんさ連の中に入つてしてはそのうまさが目立たない、私はスターになりたい」(笑聲) またこの反對に、まづいのを氣にして入らないといふのもあります。何れも協同性が缺如してゐる。

協力が出来るためには先づ協同感情が必要であります。幼稚園ではよく親が別扱ひを要求することがあります。そして、「お宅のお子さんは他のお子さん少し違ひますね」
「こいはれるまよふこんでゐる、あからさまに」お宅のは變つてゐますね、をかしいです」
「こいはれ、ば怒るのでせうが。下に變つても上に變つても協同感情の上ではいゝ事ではありません。これは調子を下げることではありません。隣が眠たから私も眠るまよふのではありませんで、隣の人が眠つた時は此方も眠つたやうな顔をして眠ないでゐるなまよふのが味のあるまよふであります。(笑聲) 先達、ある地方に講演に参りましたが、その時司會者がいふには、「暑いここでもあるし、皆さん眠からうが、折角東京から来たのだからよく聞いてくれ。それに近頃は潜水艦も現はれ

るから」
「こいはまあ舟を漕ぐま危険だまよふ事を面白くいはれたのですが——」(笑聲) そこで私はかう言つた、「司會者の御言葉は誠に有難いが、私は反對の意見である。眠るのならみんな眠てもらひたい。(笑聲) 一人でもおきてゐるま話をしなければならぬから皆ねて下さい。(笑聲) 皆がねたら私もねる。(笑聲) 皆ねたまよふで一人だけ起きてゐるのはをかしいです。ここによるま拇摸の親方かも知れない。(笑聲)

これはねむ氣がましにすぎませんが、希くは上へ協同したいものです。人のよきに、高きに協同したいものであります。しかし、不運で低き人まゐるのなら地ならしされても仕方ありません。高き人のそばにゐたいまよふのは別の話であります。

幼稚園にはよく遊戯に入らない子供がゐます。私達はその子を叱る。その叱るのは健康の爲ではありません。「あなたの健康によくない」
「こいはば子供は、それではあつちでやるよ」(笑聲) まよふでせう。「何故皆が踊つてゐるのにあなたは踊らないでゐられるのか」
「こいまよふのであります。歌でも同様、人が歌つてゐるのに黙つてゐるまよふのは不思議であります。私は歌は下手ですから一人では歌ひませんが、人が歌つてゐる時は一しよに黙つてゐるのをはをかし

い。そこで人さしよに歌ひます。歌へない時は口だけ動かしてゐる。(笑聲)金魚唱歌さいひます。(笑聲)子供の中には思ひつきり調子はづれをするのもあります。我こゝにありさいふ工合に。(笑聲)これは全體さしよになるよりも全體の中における自己が別に認められる事を要求してゐる姿であります。これはそれ程深い意味があつてのこゝではありませんが、日本人が同じ歩調に歩けないさなるさこの時局に一しよにゆく事が出来ません。協同するさ愉快になるさいふ性格の質は缺くべからざるものであります。もし幼稚園の中で先生が協同してゐなかつたらさうであります。「我組は我組にして他の組は他の組なり。他の組に負けるな」(笑聲)これでは幼稚園に来て、子供は社會形態をさりつゝ、社會感情が阻害されてしまひます。

協力を分析して二つになるさ申しましたその一つは、進んでゆくさいふこゝであります。協力も亦目的に向つて進展するこゝであります。今、統制さいふこゝがしきりにいはれますが、上から統制する必要があるさ考へられるのは日本人に協力が足りないのでありませうか。時局認識に於て、目的に向つて協力するならば外から上から、統合しないでもよいのであります。今日多く行はれる統合政策には反對しません。實に大事でありますが、これは協力出来

ぬ人間に必要なのださ思ひ、政治上必要で、教育上殘念なこゝださ思ふのであります。この、目的のはつきりしてゐるこゝの協同に、外から力を加へねばならぬさいふこゝは誠に殘念な事であります。

日本人、實に火の玉さならねばなりません。それでなければ勝ち抜けぬ、押し切れぬ現時局であるさすれば、目的に向つて力を合せるこゝは協同の快感さは又別でなければなりません。これを保育でさうするか。協同作業、誘導保育がこれであります。協力の必要を説いて、しからば協力しようか、しなければならぬね、(笑聲)さいふ事をわからせるのは子供には難しいのであります。保育は腕押しではありません。向ふに、それが出来るか出来ないかの條件がある。皆を集めて、一つ目的に向つて協同してくれないか、さ説きつけるこゝは出来ませんし、さういふ事で協力の必要が感じられて協力が養はれるこゝは限りません。子供は實に、自らなる協力をしばしやつてゐます。先生が子供に協力する、子供が先生に協力する、或は子供同志協力させるのであります。理窟や必要を説く事なく、この生活をしばしやり、その後で、「一人ちや出来なかつたね」さいふ感情をしばし味はせるのであります。元就の話は協力の一つの大きな訓誡法でありますが、あの方法の解釋は幾つも出来ません。私の感心するのはうまい例をさつてやつた

なさいふ點だけではありません。あの例は元就がはじめて發明したものではない、元就より前に他の國にも同じ話があります。私の感心するのは、あの矢を折らしてみたことそれでありませぬ。協力の効果を説いてから後やらしてみたのではない。一緒にするに折れないな、さいふ経験の後の感じ、これが元就のこつた教育的順序であります。「今日は協力デー、さあ皆で協力しませう」(笑聲)さいふので協力の爲に何かして、はい、御苦勞様さいふのでは駄目でありませぬ。協力形態を此方で先にさるのであります。そして後でそれさなく、協力の効果を感じる。幼児教育はこれでありませぬ。

さて、この協力の生活を養ふについて、子供の中にかういふ子供があつたら注意しなければなりません。傍觀的、批判的態度、協力しない、手を借さない、離れてみる、かういふ子供はいかんであります。かういふ子供は知能がある方面では發達してゐる。従來、知能が發達してゐるさいふ事を生活から遊離して發達してゐる事にいひますがこれはさんでもない事でありませぬ。生活の中に渾然として發達してゐなければなりません。坊ちゃん嬢ちゃんにかういふ子供が澤山あります。親からみるに、わい／＼連でなく、又偉さうな事を言ひますから偉さうにみえますが協力

は出来ないものであります。これは今の時局に必要な國民ではありませぬ。又これと違つて至極氣のつかない、ほんつく態度(笑聲)淡い態度があります。重い荷物をもつてゐる相手に氣がつかない。大分行つてから「あなたお荷物がありませんでしたか？」(笑聲)氣がつかないさいふのは傍觀的批判的態度より罪が少いのであります、協力性缺かさいふ點に於てその生活を批難出来るのであります。協力したくてたまらない、せずにはゐられないさいふやうにならなければなりません。まして傍觀的批判的態度は實に唾棄すべき性格のあらはれであります。これは後に餘程揉まれぬ限り改め得ない性格であります。この傍觀的批判的態度の快感を味はつたさなるさ濟度すべからざるものであります。かういふ子供には全力を盡してその惡癖を除かねばなりません。これが除かれただけでその保育が時局に及ぼす貢獻は大きいのであります。何故その子が傍觀的批判的態度になるかご申しますに、多くの場合、親の傍觀的批判的態度が子にうつつてゐるのであります。

先程、坊ちゃん、嬢ちゃんに多いご申しましたのは、その親が家庭で女中や、出入の人に對して傍觀的批判的態度をこつてゐるからであります。八百屋が汗をかきながら西瓜を持つてくる。子供はすぐ駈け出してきて受けさらうとする。あの丸い重いものを運ぶのが楽しいさいふ心ですか

ら水火も辭せずやる。(笑聲)するごお母さんがそれをこめて、「あなたはそんな西瓜を運ぶなごいふごに協力すべきではない。内閣に列した時に閣僚互に協力すればいいのです」。(笑聲)なごいふ。もつご恐ろしいのは、教育者が教育を受けてゐる相手の中にながら實に傍觀的批判的態度をまつてゐる者が多いごいふ事でありませう。「集れ、集つたか。竝べ、竝んだか。歩け、私はこゝにゐる」(笑聲)幼稚園で子供がよく先生をさそひに來ます。「先生、砂場して遊びませう」するご先生は、「あなたごいふごに砂場をしてゐるは他の人の監督が出來ません。ごめんなさい」(笑聲)所謂先生の態度、子供がまた先生になるのならそれでもいいでせうが、時局に兩肩を入れて行く人間であります。

先生は何時でも子供ごいふごに遊ばなければなりません、同時に子供ご共に一しよの仕事をしなければなりません。やたらに子供に手を借してはいけない結果もおこりませうが、はやく先生になりたい、はやく見てゐる方になりたいごいふ結果を影響する、ごは更にいけないごであります。先生の傍觀的批判的影響が子供に及ぼす恐るべき結果を思ふのであります。

協力ミは目的に向つて力をあはせ、進むごであります。協同ミ協力の動き方が問題であります。足弱の人ミ足

を合はせて歩く、相手の爲でなく、此方の爲にあはせて歩くのは容易ではありません、しかも進まねばならぬのであります。目的に向つてゆく、協同し、協力してゆくののであります。今日第一に肝心なのは目的に向つてゆく事でありませう。協同し、樂しみつゝ、それにまらはれる事なく挺身して行く態度、これは大切なごであります。子供のの中にこれの出來る子供ミ出來ない子供ミあります。人の先に立つて人を引つばつてゆく子ミ、人の後からでなければゆかない、いつも人の後をついてゆく子ミあります。殊に日本の女の教にはこれがあります。これは平時に於ては誠に麗しいが、戦時にこれですむでありますか。協同である。協力であるだけではすまぬのであります。横には協同ですが、挺身態度、これを養はなければなりません。「誰かこの中で先にやるものはあるか」ごいふごであります。おくれず進まず我協同す(笑聲)これでは進まぬのであります。挺身性を十分に具へたる協力、こゝに新たな問題の意を考へたいのであります。

第五 情味教育

私の思ふごころでは、何も時局だからごいつて教育目的が根本から變るわけではありませんが、現時局の根本から考へて、皇民性なき子ではごうしやうもない、耐久性なき

子の頼りなきこゝ、建設性なき子の頼もしからざるこゝ、協力性なき子の役に立たぬこゝ、何さうではありませぬか。しかし私はたゞこの四つが大切であるを客観的に考へてゐるのではありません。子供をみるに、さうなつてもらひたい、もらはなければならぬといふ感じであります。もし一人でもかゝる子供がゐれば貴女方に耐へられない、「こんなこゝで時局下の保育が出来るか」といふ感じでありませぬ。貴女方は個性教育をしてをられると思ふが、子供により個性教育をしてゆく場合、この時局下他の事はそんなに完全無缺でなくても我慢してもらふ。けれどもこの四つのことだけは仕上げずにおかないといふ此方の目的なら、幼児觀察の標的をこゝにおく事が出来るのではないでせうか。これを標的にせよと強いるわけではありませんが、この四つを目的としてこの四つがなければ何さかこれに集中してやつてゆかうとする。漠然とでなく標的を決めてその缺けたるを國の爲に憂ふるといふゆき方になるのではないかと思ひます。

この意味で、大事な、そして強く求むるもの四つをあげたのでありますが、これに「すかはつて、「戦時下の幼児保育」といふ題の下で考へねばならぬ事があります。今申して來たいろく、な事を性格の中に啓培しようと思ひますが、時局はまた子供にかゝる事をすゝめてゐるのであります。

耐久性、建設性、協力性を時局が養つてゐるのであります。今までは協力性の足りなかつた母親が隣組に入つてゐるではありませんか。今までは耐久性の足りなかつた母親が古い物を出して來て繕ひ物をしてゐるではありませんか。まして戦から與へられる教は皆、この四つの事によつて出來たといふ事ばかりであります。軍神加藤少將のあの皇民としての忠義な御心、そんな苦しさに耐へられるあの耐久性、部下を愛されるあの協力の心、しかも常に率先敵に向はれるあの挺身、實に、皇民、耐久、建設、協力、(挺身)この四つの點に分けられる方が我々の眼前に良い教を與へて下さるのであります。時局はかゝる教育に好都合であるといへるのであります。しかしこゝに一つの問題がある。

何さいつても戦をしてゐる、多忙であります。力づくであります。今日の時局にそふといふ教育の他に、時局下においておこるであらう缺陷——といふのは大きすぎるが——に潤ひを與へなければなりません。そつと、こまやかに、かげながらその子の情操を大事にしてゆく事は、我々の任務だと思ふのであります。先に述べた四つの事は教育目的として大きな聲でいふ事でありませぬ。國を憂ふる者の貴女方に頼んでゐる事でありませぬ。今日この大きな目的はあなただけが持つてゐるのではない、國の大きな目的を

身に體してやつてゐるのであります。しかし、大きく國を憂ふる人、子供に接しない人は、幼い頃情操を養はれずしては將來養ふ事が出來ぬことは感じてゐないのであります。

子供の息が、心が、皆さんには通じる。そこをそつとしてやるのです。お砂糖は勿體ないといひながら年下の子供には半匙多く入れてやるお母さんが多い。こんな時局程、皆さんの、子供の傍についてゐるこまが大切になる時期はないのであります。しかも情操は決して戦時と對立するものではありません。箆筒にしまつておいて、戦後おめにかゝるものではないのであります。戦をしながら、敵を憐む日本の兵隊さんであります。飢ゑてゐる敵地の子供に自分のビスケットを與へる兵隊さんであります。戦場で白い花を折りがてにする兵隊さんであります。耐久、建設、すさまじい勢で進みつゝその中に情操を織込まれ得るのであります。情操が銀の皿の上におかれる場合もあるが、かけ茶碗の上におかれる場合もある。歌に女郎花さかけ茶碗を結びつけた人があります。蒔繪の器でなければならぬといふ時代もあり、またそれでもよいのでありますが、砲彈のかけらに挿してもいゝ、いゝごころかその方が味が出るではありませんか。こんな事を他の集りでいふと笑はれます。ですから私は他ではこんなこまはいはない、先の四つのこまだけ述べておけばよいのであります。しかしこまでは子供

こましよにゐるあなたがただからこのこまを申すのです。情操なき皇民、耐久、建設、協力、(挺身)のみでは力まなつても性格にならないのであります。藥を飲むにも水こましよに飲むではありませんか。情操と共にこの時局認識が融けて入つてゆくのでなければ本當の性格は出來ません。これは情操の遊びでも戯れでもありません。しかし、先の大切な四つのこまを忘れて情操のみに浸つてゐる方があれば、それはおはなしになりません。

青年學校でも、海軍兵學校でも、陸軍士官學校でもこれは皆やつてゐる事であります。こまをやるのが幼稚園ではない。幼稚園は保育の中でそれをやつてゐるのであります。耐久性、建設性、協同性さぎうくやるのはありません。「お早やう」さいひ、鼻が出てゐればかんでやる。これが先であります。この保育の中で、この四つの事が出来るのであります。この四つの事をする爲に始めた幼稚園であります。毎日の生活は保育であります。保育はあなたと幼児との情緒的觸れあひ以外にない。この保育でこそ、この四つの事も出来るのであります。情操の世界の中でこれが出来るのである、あなたの優しみの中で出来るのであります。前の四つとこれと對立すべきものではないのであります。

以上で私の話を終ります。(六)